

し、県内の衛生に留意して来た堺県が、医学校の廃校に追い込まれるには、特別の事情があったと考えざるを得ない。その大きな要因として、翌年春の大阪府への合併をひかえ、府側と交渉が重ねられた結果、府内に二つの医学校を否とする線で廃校になったものであろう。合併前に廃校の線を打ち出し、残務整理として、すでに給費している医生やこれから給費を受けようと試験合格済の医生に対し、他の医学校で就学、または開業医について修業する者には審査の上、引続き給費制を続け、管内近代医師の確保をはかるうとしている県側の熱意がここにもみられる。

(杏雨書屋)

『医務取調書上』と

『医者履歴明細書』

—明治初年の医師現状調査について

深瀬 泰 旦

岩倉使節団の一員として欧米諸国の視察からかえった長与専斎は、明治六年六月、相長知安の後をうけて第二代の文部省医務局長に就任した。そしてこの長与の医務局長就任をまっていたかのように、太政官は医制取調方を文部省に発令した。

明治新政府は、近代国家としての体裁をととのえるうえからも、民生の向上をはかるためにも、種痘の強制接種をはじめとして衛生行政全般にわたって制度の充実を企図したが、まずその根幹となる医師の教育、免許制度の確立をはからなければならなかった。それが明治七年八月一八日に公布された医制七六ヶ条である。

この当時、政府は全国の病院、医師や薬舗の状況を何一

つとして把握していなかったので、まずその実状をしるこ
とからはじめなければならなかった。明治六年六月全国の
府県に命じて、管内の医師や薬舖の状況を、さらに翌七月
には病院の設立状況を調査せしめた。その調査方法は府県
管下の大小区別に、人口とそこにすむ医師の人数とを調査
し、医師の履歴を一定の書式にしたがって記入、提出させ
るものであった。すなわち氏名、年齢からはじまり、医学
の修業年数とその内容、開業歴などであって、現今年一回
おこなわれる医師現状届よりはるかに詳細なものである。

明治六年六月一九日の文部省通達をうけた各府県は、管
下各医師にたいして履歴書の提出を命じ、これに応じて医
師は、その雛形にしたがって記入した履歴書を、各大区の
区長を通じて各府県庁あてに提出した。各府県庁より文部
省にあつめられた履歴書は、医制をはじめいろいろな衛生
行政関係法案の立案にさいして、基礎資料としての力を発
揮したことは想像にかたくない。その後明治八年六月衛生
行政事務が文部省から内務省に移管されたとき、必要書類
として内務省に搬入された。ところが七月三日に内務省は
火災にあい、舎屋とともにこれら履歴書綴はすべて灰燼に

きってしまった。

そこで内務省衛生局は各府県にたいして再度医師履歴書
の提出方をもとめた。これが通達されたのは明治八年七月
二五日のことである。

長年にわたって武蔵国橘樹郡梶ヶ谷村の名主をつとめ、
維新後も神奈川第五大区の区長をつとめたことのある田
村家には、田村家文書として多数の古文書が蔵されてい
た。現在は筑波大学日本史研究室の所蔵になっている。こ
の旧田村家文書の一部に、医師の履歴書を一括した『当区
医務取調書上』『医者履歴明細書』や、医師の営業鑑札願
とその請書がある。

『当区医務取調書上』は、明治六年六月の文部省通達に
もとづいて、神奈川県第五大区にすむ一八名の医師が、時
の神奈川県権令大江卓にあてて提出した履歴書の控えの綴
りである。一方『医者履歴明細書』は明治八年の内務省の
火災後、七月二五日づけの通達で再度履歴書の提出方をも
とめられたのに応じて提出された医師の履歴書の綴りで、
一六名の医師がこれにおさめられている。

この両文書は明治初年の医師の実態をしめすものである

が、それらの医師が医学を修得したのは江戸末期のことであるので、その頃の医師の修業年限、修業内容やその師をしるうえで貴重な史料といふべきであろう。その詳細な内容については、いずれ機会をあらためて発表するつもりである。

明治六年提出の履歴書は、すでにのべたように内務省の火災によってすべて焼失してしまったのだが、明治八年の再提出分の履歴書は、現在どうなっているであろうか。これについての追跡調査が成功すれば、すばらしい史料としておくの新しい事実を解明することができるにちがいない。しかし原本に到達しえなくとも、地方において控えの綴りなどが発見できるならば、それでも史料としての価値はおおきいものと思われる。

医事法制史上の貴重な史料をおおく所蔵している順天堂大学山崎文庫についてこの種類の史料をあたってみたが、わずかに三点を蔵するにすぎない。これらが「医師営業届」などと一括されていることから、営業届との関連で追究していくのも一方法であろう。また川崎市の例のように、区長や名主などの末端の行政責任者の文書綴りにあたってみ

るのも一つの方法であろう。それぞれの地方で、このような地道な努力によって医師履歴書の発掘につとめていただきたいと切にのぞむものである。

(順天堂大学医史学研究室)